

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000064		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム りんご		
所在地	岩手県陸前高田市高田町字中田69-2		
自己評価作成日	平成24年10月18日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0391000064-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームりんごは、医療法人が運営する介護老人保健施設やクリニック・訪問看護ステーションなどと併設されており、入居者の状態変化や急変、災害などの際には各事業所と連携し速やかに対応できる体制が造られている。中庭には畑があり、併設の老健と共同し、地域の子供達に参加を呼びかけ「子供農園」を開催。畑作業を通し入居者と子供達が交流できる場を設けている。また、季節毎に食事を楽しんで頂けるようバイキングメニューを取り入れたり、スクリーンを利用した上映会を開催するなど、入居者と職員が一緒に、ゆっくり・楽しく過ごせるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内を見下ろす高台に位置した「グループホームりんご」は、老人保健施設「松原苑」や事業所を備えた法人施設の一角にあり、周囲にはりんご畑が広がっている。震災前に比べて利用者のADLが低下傾向にあり、状態変化、急変に迅速に対応が取れる体制、連携が図られている。日常の小さな変化に対しても職員間で連絡されていることを目にする事ができた。
法人の松原クリニック、県立高田病院との連携も良く取られており、利用者、家族の安心につながっている。訪問看護師が週1回、利用者全員の状態を見て、指導、助言をしている。運営推進会議も地域の方や法人職員、利用者家族等広範な委員で組織されており、有益な意見が出されて活発な意見交換がされている。地理的に隣近所が遠い不便さはあるが、運営推進会議と職員のアイデアによって、今後のホーム作りが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」の理念の元、管理者・職員共に入居者のペースに合わせた生活が出来るようホーム内に掲示意識統一を図っている。	隣接するグループホーム「つばき」と共通の理念を掲げて、見直しを視野に入れながら取り組みをしている。ADLの低下に伴い、より利用者のペースに合わせたケアが必要になってきている。振り返りをしながら、職員の意識を統一して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の老健と協力し、地域の子供たちの参加を呼びかけ「子供農園」を開催。親子で苗を植え、収穫するなど、交流を深めている。	地域の親子に呼びかけて、畑を使い「子供農園」を開催して親子で参加してもらい、喜ばれている。利用者とのふれあいができ、交流が深まった。法人の納涼会、敬老会には、家族の参加も呼びかけている。近くの米崎中学校の生徒全員で掃除、窓拭きのボランティアに来所してくれる計画がある。	出かけてのふれあいは難しくなり、来所をお願いしての交流であるが、地理的に不便なところであり、交通の便も悪いため地域との交流には、難しい点が多い。体調、天候の条件が良い時には、短時間でも外に出かけるチャンスを作ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、ホームでの取り組みや認知症ケアについて報告している。認知症家族の会に参加、相談やアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、入居者の状態を報告したり、パワーポイントを作成し、行事や日常の様子を見て頂いている。広く意見を頂き、スタッフミーティングにて報告を行い、日々の業務に反映させている。	委員からは、車イス利用者が多くなってきたので、避難時の対応に関しての意見や、防災用具の検討などの意見が出ており、法人と検討をしている。ホームの様子を知っていただけるように、「りんご」便りを毎月発行したり、ホームの様子をスライド映像にして、見ていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加して頂き、事業所の実態や情報を報告、共有している。困ったことがあった場合は、包括や市に相談している。	運営推進会議の委員として参加をしていただいている。困難事例等は包括に相談して解決の方向に向けている。行政の介護保険連絡会が2月に1度あり、他の事業所とも緊密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。夜間のみ、防犯の為施錠している。どのようなケースが身体拘束となるのかをスタッフミーティングで話し合いをしている。	法人に「身体拘束廃止委員会」があり、月1回の会議に参加をしている。法人の研修会にも参加をして、職員間でも情報の共有をして、拘束の無いケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で開催される研修会に参加している。どのような事が虐待にあたるかをスタッフミーティングでも話し合い、職員の言動が入居者を傷つける事がないよう意識づけしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ研修等に参加した職員が復命するなどし、学ぶ機会を設けている。入居者が必要と判断された場合は、地域包括や社協と連携し、入居者・家族と相談の上、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人・ご家族にホームを見学に来て頂き、疑問点や不安など聞き、説明するようにしている。契約時には十分な説明を行う時間を取り、安心して手続きができるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望や不満を傾聴し、思いを酌み取るようにしている。また嗜好調査なども行っている。法人内委員会で家族へアンケートを実施したり、運営推進会議で意見をもらい対応している。	家族に対して、法人がケアについてのアンケートを実施している。ホームとしても「嗜好調査」をして利用者の好きな食べ物を把握して献立に反映させている。 意見としては出ていないが、法人の人事異動でスタッフが変まって戸惑った声があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、スタッフミーティングを行い、職員から意見や提案を出してもらっている。バイキングを取り入れ、入居者に食事を楽しんでもらっている。	自分の好きなものを好きなだけ食べられる「バイキング食」を試してみたらどの意見が出て実施し、利用者に喜ばれて盛況であった。「就寝前に洗顔をする」ことも職員からの意見であり、意見を実施に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週水曜日に、事務長・看護部長が巡回している。その際、職員と意見交換している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に新人研修～経験年数に応じた研修カリキュラムがあり、参加している。また、GH協会の定例会への参加など学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHの定例会や実践者・ケアマネ研修などに参加し、他の介護職員と事例検討や意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にホームの見学をしたり、本人に傾聴し観察を十分に行ない、安心して過ごせるよう配慮している。気づいた事を職員間で周知話し合い、支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや意見、家庭の事情等を十分に伺い、お互いに信頼感を持って相談できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当のケアマネージャー、ホームの職員が導入時に話し合いを持っている。状況、状態の把握に努め、サービスの必要度に応じた支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に笑ったり喜んだりして、共感を得ることにより本人との関係を深めている。また、本人の能力に応じて家事全般や畑仕事等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等のお知らせをし、一緒に参加して頂けるよう計画したり、面会時は居室で一緒に過ごせるよう環境を整えている。 月に一度、御家族へ連絡表とりんご便りを送付し、入居者やホームの様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で地域のお祭りや行事を見に出掛けたり、知り合いの方の所へ出掛け交流を図っている。馴染みの理容店へ散髪に行っている。	以前は出かけることも多くあったが、最近は回数も減り、通院の帰りに買い物したり、来所をお願いしたりと、関わり方も変化してきている。市の七夕祭りは、車窓から見物をした。矢作のあやめ祭り、昔よく行った氷上山へ弁当を持参で出かけた。春の花見、秋の紅葉に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の性格や趣味等を把握し、テーブルを囲みながら一緒に作業して頂いている。又、役割を持つことで入居者同士が助け合える関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の生活について、居宅事業所の職員に相談に乗っていただいたり、フォローの連絡をしている。又、担当のケアマネから状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によりアセスメントを行っている。本人に聞き取り困難な場合は、御家族の意向や日々の生活での様子(会話・行動)などを把握し、活かすようにしている。	自分で意思を伝えることが出来ない利用者が2人いるが、思いのくみ取りをして何とか把握に至っている。気持ちを推察して会話に持って行く工夫をしている。「眠れない」「食べられない」「トイレに行きたい」などの思いをすばやくキャッチして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りや普段の会話から生活歴やなじみの暮らし方、生活環境等の情報を把握し、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化も見逃さないように日々の生活において心身の状態把握に努めている。一人一人が出来る事を把握し、役割を持ってもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が本人・家族から希望や意向などを伺い、アセスメント・ケアプランを作成している。最終的に計画作成者がプランを確認している。スタッフミーティングや申し送りで入居者の変化を出し合い、状態が変化した場合は見直ししている。	利用者の担当が本人、家族の希望を聞き取ってミーティング時に参考にしている。訪問看護、ドクターの意見も重視して、ケアプランに取り入れている。遠方の家族とは、電話で連絡を取って了解を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアの提供実施について、結果や気づきを記録している。気づきがあった場合は申し送り、スタッフミーティング・カンファレンスで共有し、見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスが必要になった場合は、事業所の説明や紹介などを御家族にお話しし、利用の判断を一緒に考えている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な地域資源の情報収集に努め、入居者に必要が見られた際は問い合わせを利用して利用可能か確認を取っている。(移動図書等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、御家族・ご本人の希望を伺い決定している。受診の際は、御家族に状態を伝えたり、血圧手帳を渡すなどし、受診して頂いている。御家族の受診が難しい場合は職員が対応している。	半数の方がホームの協力医にかかりつけ医を変更している。大半の方は家族が受診対応、介助をしているが、遠方の家族や、都合の悪い家族に代わってホームで対応することもある。通院時はバイタル、情報の提供をしている。なお、週一度は訪問看護師が来て、利用者全員の健康チェックを行い、異常時には24時間体制で対応される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師が健康チェックに訪れ、気になる事がある場合は相談している。それ以外にも変化があった際は随時連絡をし、相談・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は職員が面会に行き様子等を確認している。御家族や看護師と治療や状態についての情報交換をまめに行い、退院に向けた話し合い等行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しており、入居者の状態変化に応じ家族に伝えている。終末期ケアの実施はまだ行っていないが、実際に経験した職員から体験談を聞くなどし、今後の取り組みにしたいと考えている。	法人の看取りの指針を、ホーム用に作り変えて使用している。看取りを体験した職員から話を聞いたり、法人の勉強会に参加したり、介護度が高い利用者、家族と話し合いを重ね、頻りに連絡を取り合っている。同意書の用意はしてある。法人、協力病院との連携も進んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、緊急時の対応をスタッフミーティングでも確認し合っている。AEDの研修会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に行い、避難訓練を職員全員参加の元行っている。地震や津波時における外出マニュアルを作成し、職員間で共有している。	通常の避難マニュアルの他に、外出時のマニュアルも作成してある。避難訓練は、法人で年2回、ホームで年2回(一回は夜間19:00から実施)行っている。準備品として米、水、介護用品等を用意した。よく出掛ける場所のマップを用意して、事前に情報を得ることもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を把握し、声の掛け方や対応を変え接している。職員の言動が入居者の尊厳を傷つけない様各自注意している。	進んで掃除や裁縫をする利用者があり、「お願いします」の声を掛けて、できる範囲で参加をいただいている。出来ないというマイナス面を感じないように、職員がカバーをしている。していただいた後には必ず「ありがとうございました」と声を掛けて感謝の気持ちを伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ドライブ等で外出した際は好きなものを食べて頂けるよう働きかけている。日常の活動についても本人の意思を尊重し、出来る限り自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に出掛けたいと訴えがある時は、職員と1対1で出掛けたり、一人でゆっくりテレビが見たい方は、他入居者が入床した後も、好きなテレビを見て過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やマニキュアなど個人に合わせたおしゃれが楽しめるよう支援している。衣類についても自分で選んで頂くようにしているが、迷う場合はどちらが良いか選択できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力を生かして出来る事に参加して頂いている。季節に応じたメニューでバイキングを計画したり嫌いなメニューでは代替で対応するなど、楽しく食事できるよう工夫している。	熱を加える食材は皮むき、刻み等に参加をいただいている。盛り付け、下膳、洗い、拭きかたに参加をしている利用者がある。誕生会や季節ごとにバイキングを取り入れて楽しんでいる。今後はスイーツバイキングも計画している。職員も利用者の間に入って同じ昼食をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好きなもの、昔飲んでいたものを取り入れ、提供するようにしている。嚥下状態や体重の増減なども考慮し、それぞれに合わせた量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には毎食後、義歯洗浄、うがいを行って頂いている。出来ない方については介助にて行っている。必要に応じて、訪問歯科受診している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握。尿意等曖昧な方に対しては、定時でトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	「基本はトイレで」を推進しているが、ADLの低下で難しくなっている。常時オムツ使用者2人、自立1人いるが、こえ掛け、見守り、介助で対応している。ドアの外で待機しているが、今後は付き添い状態になると考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし、水分摂取に努めている。献立に食物繊維の多い食材を取り入れたり、毎日牛乳等の乳製品を提供したり、体操などで体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に考慮し、希望に応じて曜日や時間帯に関係なく入浴して頂いている。好みのお湯の温度を把握し、入浴剤を使用するなど、楽しめるよう工夫している。冬場には浴室を温めてから入浴して頂いている。	週2回は入浴をするが、本人の希望を重視している。夏場はシャワー浴も取り入れている。ほとんどが職員1人で対応しているが、職員が2人で対応する方が1人ある。湯温42度で、冬場は浴室を温めてから入浴をしている。異性介助等のトラブルは無い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩スペースがありいつでも休息が出来る工夫をしている。寝付けない入居者に対しては、テレビや会話、飲み物を提供するなど可能な限り対応している。本人の希望により、お昼寝も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにし、職員が確認できるようにしている。個人ごとの引き出しを利用し、内服前後確認・記録している。受診時には内服の変更等ないか、申し送りを行い、内服が変わった時など、特に症状の変化に注意し、異常があれば訪看やかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に出掛け、欲しい物を買って頂いたり、畑仕事や好きなテレビ番組を見て頂いたり、裁縫を行って頂いたり、生活歴を生かした支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩や、畑に出での野菜作りや収穫を楽しんで頂けるようにしている。又、バスハイクや地域のお祭り見学にも出掛けている。家族の面会時に一緒に外出したり、病院受診時に食事を楽しんでくるなど、家族と過ごす時間を設けている。	ホームの周辺散歩、畑の管理等行動半径が少なくなる傾向である。散歩も5～10分程度で車イスの利用者も共に行っている。通院時家族と外食をしたり、買い物をする利用者も2～3人ある。お正月、お盆には、家に戻り家族と過ごされる利用者もおり、何日か滞在されている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かっているため、欲しい物があれば買い物に同行し、購入して頂いている。本人に財布を渡し、会計をして頂く場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの訴えはないが、要求がある際には、電話の取り次ぎ等、いつでもお話できるよう支援している。 御家族に行事等の案内のはがきを出す際に、一言書いて頂く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や作品を飾り、季節感を取り入れるよう工夫している。清潔面や安全面に配慮しながら、皆でゆっくりお茶などを楽しめるよう、ソファを囲むように配置し、なじみの入居者同士顔を合わせながら過ごせる工夫をしている。	大きなテーブルと、ゆったりしたソファ、畳の小上がりが3箇所あり、いつもはそれぞれ好きな場所でくつろぎ、横になる利用者もいる。訪問時は居室に戻って休んでいた。休まない利用者を見守りしながら、職員は書類の記入をしていた。採光、間取りもゆったりと取られており、過ごしやすい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームや廊下中央部に椅子を置き、思い思いに過ごせるような場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で本人が使用されていた家具を持ち込んで頂いたり、バースデーカードや色紙、写真等を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	使い慣れたタンス、椅子、テーブル、ポスター、写真、位牌などの持ち込みがある。広めの居室が整頓されて、明るく清潔である。床暖房で安全面にも配慮されている。居室の表札は「りんご」型の木の板を使っており可愛い作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ等のプレートを入居者がわかりやすい目線に整備し、安全に配慮しながら、出来る事を考慮している。不備があればすぐに整備を行っている。		